

見た目は似ていても・・・

チョウセンアサガオ類 (有毒)

実際にあった事例

根をゴボウと間違える事例が多くあります。つぼみをオクラと、また、種子をゴマと間違えて食べた事例もあります。

チョウセンアサガオ類 (ナス科)

東南アジア原産で、江戸時代から明治時代に日本に入ってきた帰化植物です。夏から初秋にかけて白く長い漏斗状の花を咲かせます。果実は、大型でトゲが密生し、成熟すると4裂して扁平な種子を多数散布します。キダチチョウセンアサガオなど多くの種類があります。植物全体にヒョスチアミン、アトロピン、スコポラミンなどのアルカロイドを含有しており、誤食すると、おう吐、瞳孔散大、呼吸の乱れ、けいれん、呼吸困難などの中毒症状が起きます。



チョウセンアサガオ

有毒



チョウセンアサガオ (八重咲き)

有毒



チョウセンアサガオの根

有毒



上：チョウセンアサガオのつぼみ (毒)
下：オクラ (食用)

有毒



チョウセンアサガオの実

有毒

園芸店では「ダチュラ」や「エンジェルストランペット」などの名前でも親しまれています。



実際にあった事例

チョウセンアサガオを台木にして接ぎ木したナスを食べたところ、ふらつき、ろれつ困難、意味不明の話をするなどの症状を呈した事例がありました。